

平成25年度 学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 国際社会に通用する真のグローバル・リーダーの育成 2 進路目標の実現に向けた学習力の育成 3 教育環境の整備を図り、安心・安全な学校生活の保障 4 地域に愛され、地域に育まれる学校づくり
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月27日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○学習指導要領改訂を受け、英語教育において創意工夫を図り、英語教育環境を整備する。 ○国際理解学習と環境学習をテーマにESDを推進している。しかし生徒の英語力は高くなく、英語学習の習慣化や学習意欲向上などの課題が残るため、異文化への興味関心を英語学習意欲を促進させるような取り組みを行う。	○英語教育の充実 ○ESDの推進	①新課程での英語教授法の研究 ②英語力を測る機会を充実させる(各種検定試験、全校単語テスト、全校リスニング) ③国際理解学習(世界異文化学習会・海外料理学習会、留学生受け入れ、台湾、マレーシアの生徒との交流、教職員・生徒の海外派遣) ④環境学習(エコキャップ運動、古着回収運動、緑のボタン運動)	①教科会を開催し教授法に関する研究を深めることができたか。 ②事前・事後学習を効果的に行うことができたか。 ③異文化と日本文化の相違点を発見し興味関心を高めることができたか。 ④エコキャップ、古着回収を地域に周知し、活動を普及できたか。	○教科内での研究を深めた。 ○効果的な事前指導を行った。 ○多くの生徒が補助生徒として台湾・マレーシアの生徒と交流したり、海外研修事前学習として異文化学習を行うことができた。 ○エコキャップは昨年度以上に回収頻度が上がり、古着回収は五峯祭にて多くの方から回収することができた。	B
2	○国公立大学や難関私立大学への合格に向け、授業の質向上や、朝・放課後などの学習活動を行っている。現状での課題は、入試問題や、検定問題に対応できる授業であるかを検証することにある。 ○全教科の基礎知識の定着を図る取り組みを推進する。現状での課題は、基礎基本分野の反復を促す「KOKUSAI METHOD」を全クラスが徹底して実践することにある。	○教師は質の高い授業が実施できたか ○教師は研究授業によって現状を把握し、結果を検証する教科会を実施したか ○生徒は学習内容が定着しているか ○生徒の学習意欲は向上しているか	①教科会の実施 ②研究授業の実施および、授業アンケートの実施・結果の検証 ③家庭学習時間・内容の把握	①進路指導部の目標をうけ、各教科は目標や教科内容を明確にしたか。 ②授業アンケートや研究授業を活用し、授業力向上に役立てたか。 ③KOKUSAI METHODの徹底を図れたか。	○授業アンケートや研究授業を実施し、その結果について教科会議の中で意見を交換し、授業力向上に努めた。 ○KOKUSAI METHODの取り組みを各学年が工夫して行うことができた。	B
3	○教育方針「礼を尽くし、場を清め、時を守る」及び生活の重点目標「挨拶・清掃・時間厳守・身だしなみ・話を聞く・けじめ」など、人間教育に重点をおいた【人づくり教育】を実践している。その一環として、「ノー遅刻DAY」を実施している。年々、遅刻者は減少傾向だが、今ひとつの状況であり、課題の一つといえる。	○生徒指導の充実 ○部活動の充実 ○学校行事の充実 ○教育相談の充実 ○人権教育の充実 ○地域、関係機関との連携の充実	①「ノー遅刻DAY」「あいさつ運動」「頭髪・服装・言動・私物」等の基本的な生活習慣に係わる指導の徹底 ②部活動、学校行事への積極的参加の奨励 ③生きた教育相談、家庭との連携、人権教育の講演を実施 ④多岐にわたる問題行動の未然防止、天災に備え、地域・各関係機関との連携の強化	①時間厳守、挨拶、身だしなみがしっかりできているか。 ②部活動の参加状況および実績状況。また、生徒主体での学校行事ができているか。 ③教員、生徒、保護者の信頼関係が築けているか。また、いじめ防止・早期発見・対処ができているか。 ④日常的に学校開放、防火防災訓練、問題行動の未然防止ができていくか。	○「ノー遅刻DAY」「あいさつ運動」「頭髪・服装・言動・私物」等の基本的な生活習慣に係わる指導の徹底により、学校全体が落ち着いてきている。部活動の加入率・成果、学校行事も活発となっている。 ○生きた教育相談・人権教育等の講演実施、天災に備え、地域・関係機関との連携を図って防災教育を行った。	B
4	○各種生徒募集活動により本校の教育情報を積極的にPRした結果定員を充足している。今後は定員を充足しつつ、上位コースの入学者を増やしていく。	○各コースの定員充足 ○質の高い広報媒体の制作 ○中学校訪問、塾訪問校数 ○学校説明会、個別相談参加者数 ○外部会場相談会等の参加者数	①学校案内、ポスター、チラシ等の制作 ②HPの更新 ③中学校訪問、塾訪問 ④学校説明会、個別相談会実施 ⑤外部会場相談会等への参加	①学校案内等について受験生、保護者、中学校、塾の評価はどうであったか。 ②HPの更新頻度は適切であったか。 ③中学校や塾に対して適切な情報提供ができたか。 ④学校説明会、個別相談会は充実していたか。 ⑤外部会場相談会の参加者が増えたか。	○学校案内等は概ねよい評価を得た。 ○HPをリニューアルして適切に更新できた。 ○中学校、塾訪問予定校数を訪問できなかった。 ○生徒の司会や発表を取り入れた評価の高い学校説明会を実施することができた。 ○外部会場相談会では昨年を上回る参加者を得た。	B

学校関係者評価
実施日 平成26年3月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等
SGH申請はその顕著なあらわれであると思う。評価指標の可視化を提言したい。ここでいう可視化とは、研究を深めるとは何を指すのか、その達成値は、等を教職員間で共有し明らかにしていくことである。
少人数での授業は、教師の目が行き届くメリットがあるが、他方、競争力が育ちにくい。本日見学した授業は少人数習熟度展開で、生徒が熱心に学習に励んでいたが、教師は競争力を付ける点に配慮し、授業を行った方がよい。 KOKUSAI METHODについては、ぜひ継続してほしい。授業の到達点を示し、評価し、フィードバックする、というサイクルで行ってほしい。
昇降口の下足ロッカーが整頓されているのを見て、校内の落ち着きを理解した。見学した授業では、生徒は熱心に取り組んでいたが、活発さがあると良いと思った。
小室小主催の研究協議会に国際学院の教職員が多数参加したことに感謝したい。伊奈町の小学校からも国際学院中学校への入学者が数名いる。これからも、地域と交流をはかっていってほしい。